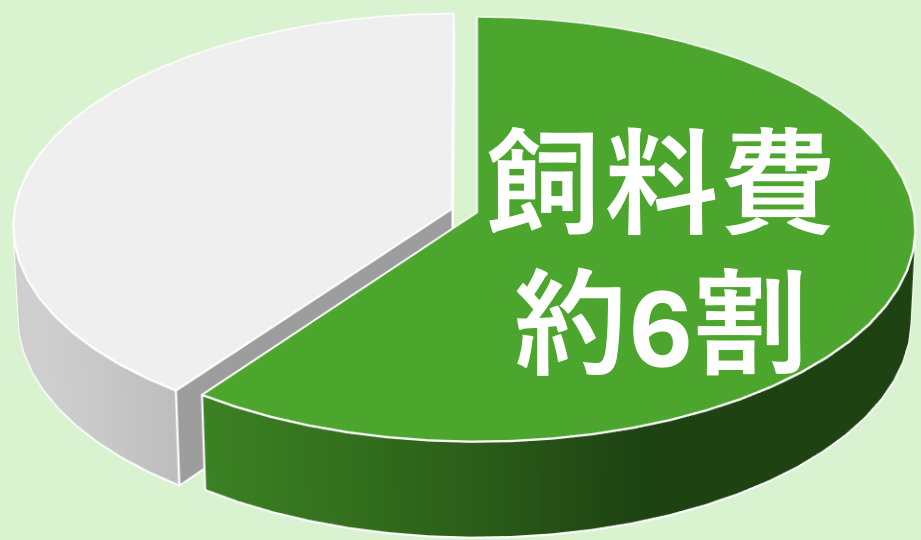


乳酸菌加熱菌体給与による肥育豚の生産性向上



木村 壘¹⁾、倉田 笙平¹⁾、竹谷 以紀²⁾、近藤 宏哉²⁾、塔ノ上 毅²⁾、新里 出²⁾
¹⁾山梨県畜産酪農技術センター ²⁾住友化学株式会社

背景・目的



- 飼料費は肥育豚生産費の約6割
- 配合飼料価格が海外情勢の影響を受けて高騰し、経営を圧迫



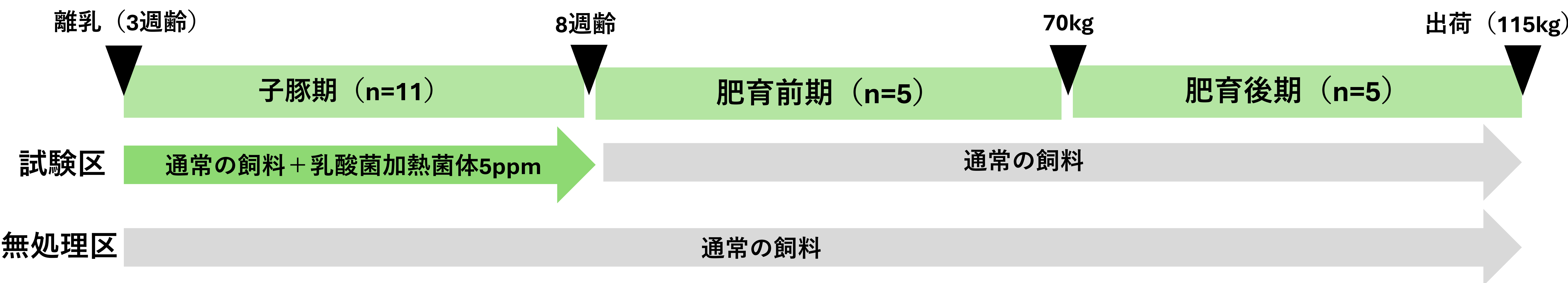
- 乳酸菌加熱菌体の給与により、腸内細菌叢が変化し、栄養吸収能力が向上することが報告されている
- 胃酸の影響を受けにくいいため、安定的に使用可能

目的：乳酸菌加熱菌体の給与により、肥育豚の栄養吸収効率を上げ、生産性向上を図る

方法

離乳後から約8週齢まで乳酸菌（*Lactiplantibacillus plantarum* ABG0016株）加熱菌体を5ppm添加する試験区と通常飼料のみの無処理区を設定し、出荷まで3つの期間に分けて調査した。

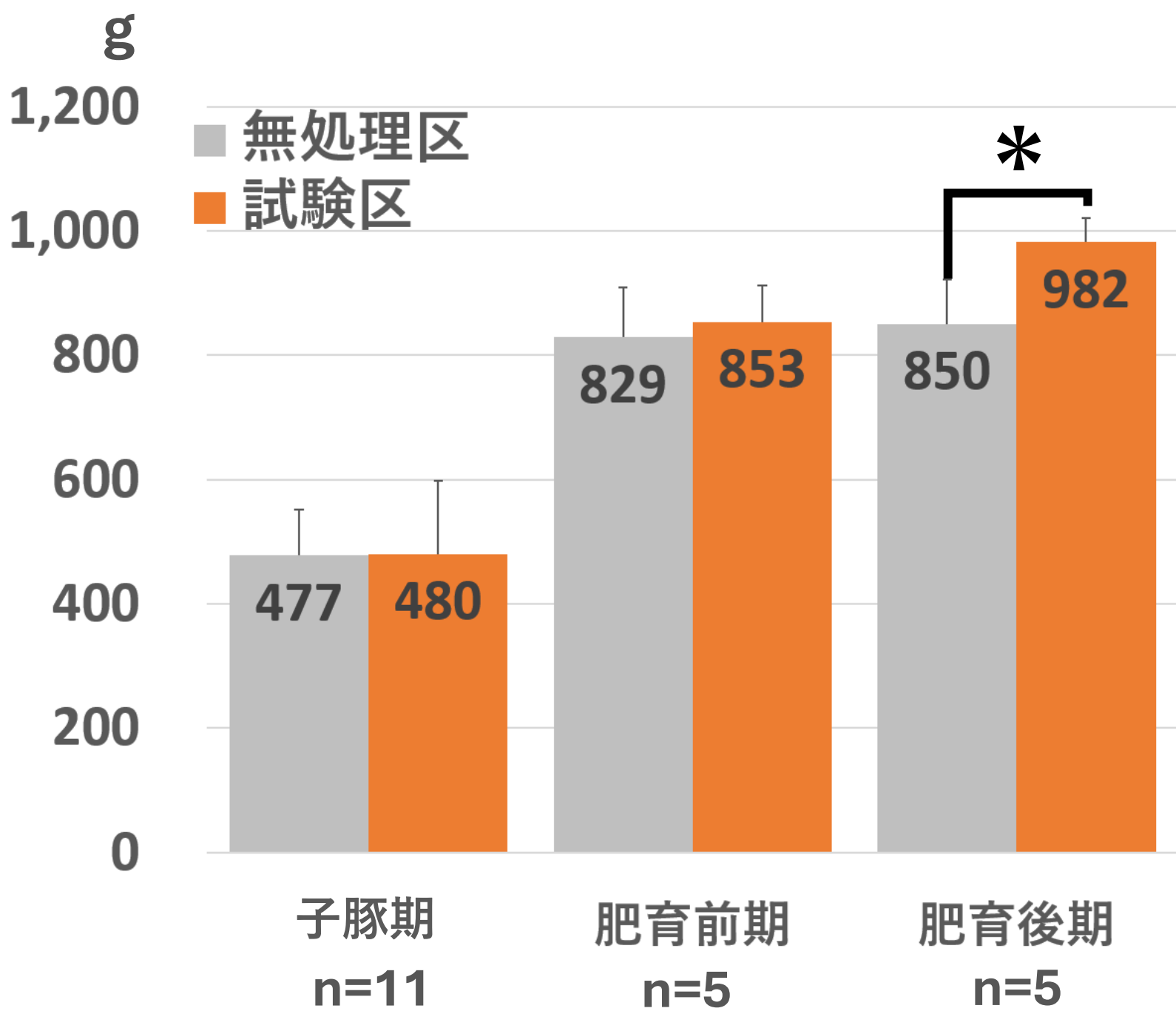
【調査項目：生産性（1日増体重）、子豚期の糞便解析（細菌叢・有機酸）】



結果・考察

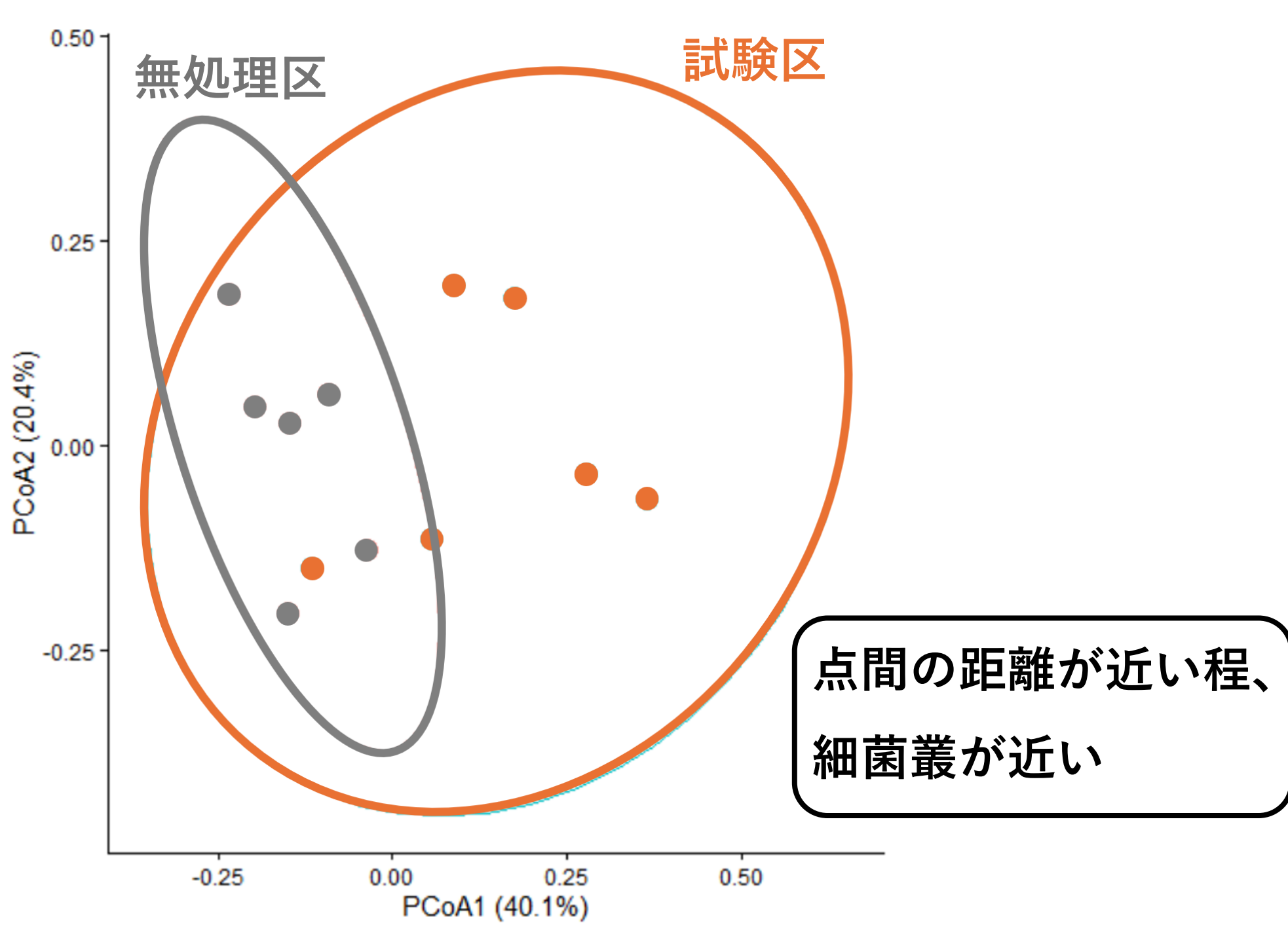
* : $p < 0.05$

(1) 1日増体重

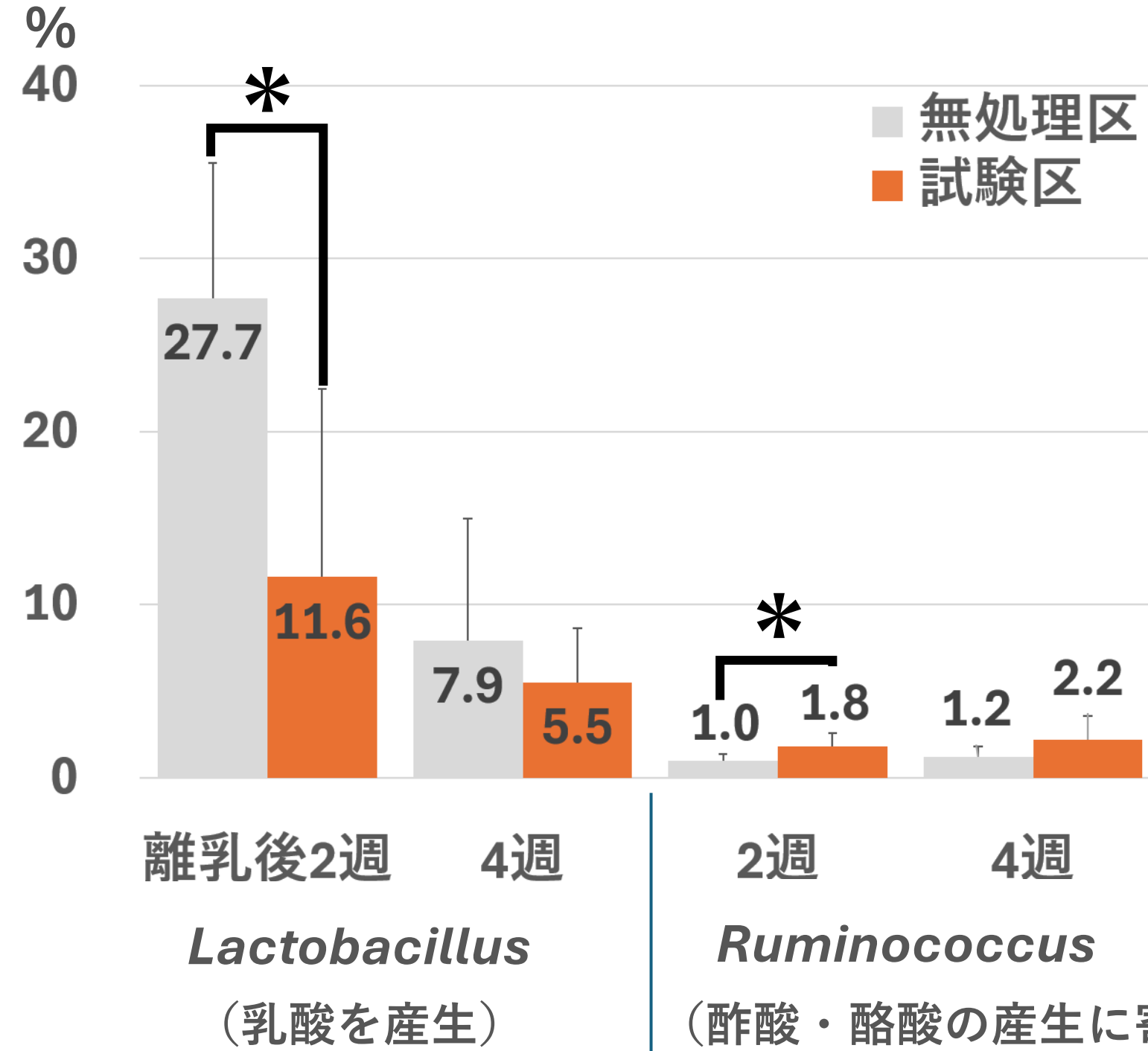


試験区の肥育後期において有意に高い
→ 出荷までの肥育日数を減らせる

(2) 糞便中の細菌叢の多様性 (n=6)

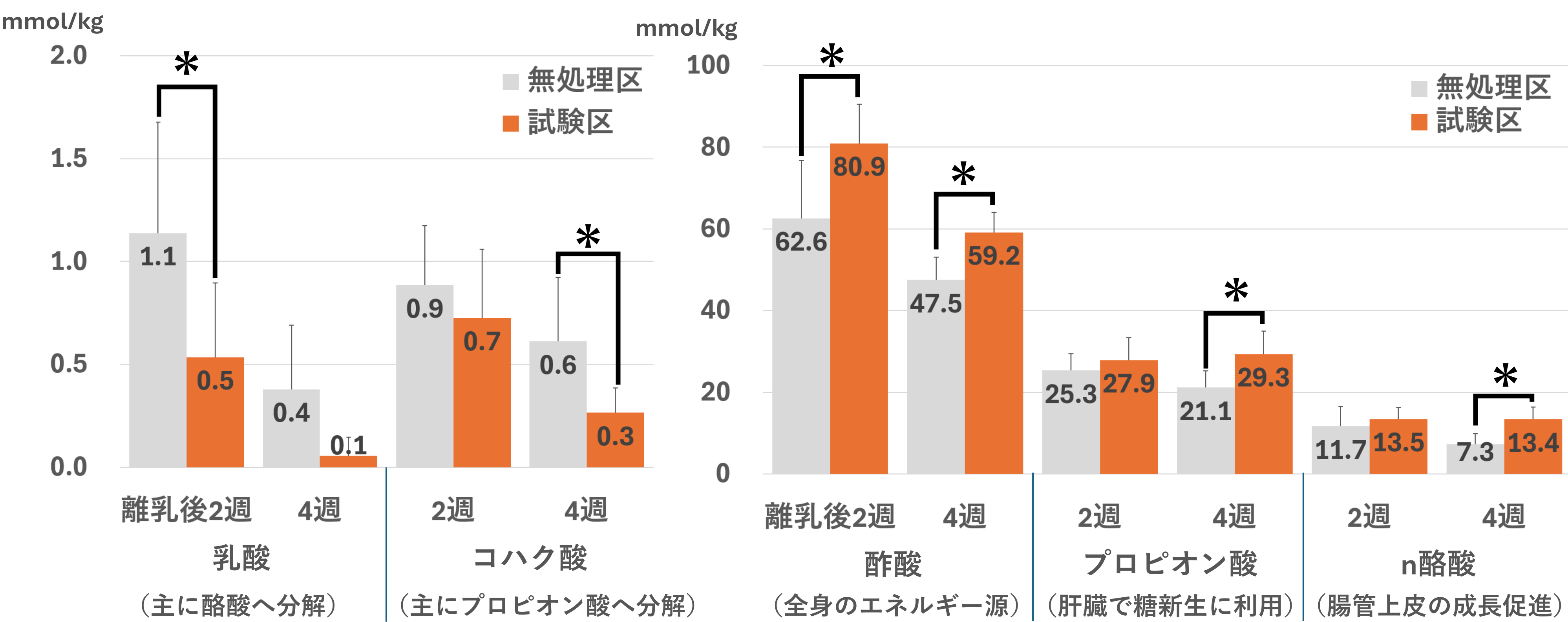


(3) 糞便中の細菌の割合 (n=6)



試験区で *Lactobacillus* 属細菌の割合が少ない
試験区で *Ruminococcus* 属細菌の割合が多い

(4) 糞便中の有機酸 (n=6)



試験区で【乳酸・コハク酸が少ない】 【酢酸・プロピオン酸・n酪酸が多い】

子豚期

乳酸菌加熱菌体給与により
腸内細菌叢が変化することで
有用な有機酸が増加した

肥育後期

腸内環境が改善したことで
栄養吸収能力が向上し
肥育後期の1日増体重が増加した

生産性
UP